■ HRD FINE ART 展覧会開催のご案内 ■

ゲリー・デ・スメット 個展
意図せぬ因果関係

会　場： HRDファインアート（京都市上京区上御霊竪町494-1）
会　期： 2021年 10月7日（木）～ 11月27日（土）
時　間： 木曜日　11:00～15:00
金・土曜日　11:00～19:00
休　廊： 日～水曜日（事前のアポイントにより観覧可能です）
後　援： ベルギー・フランダース政府

Flanders
State of the Art

【展覧会概要】

HRDファインアートでは、10月7日から11月27日までの会期でベルギー人アーティスト、ゲリー・デ・スメットの個展「意図せぬ因果関係」を開催します。ベルギーを拠点に欧州各国で幅広い活動を行っているデ・スメットの作品を日本で初めて紹介する展覧会となります。また、本展は「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」のサテライトイベント「KG+ 2021」の参加展覧会です。

ゲリー・デ・スメットは 1961 年アントウェルペン（ベルギー）生まれ。現在はベルギーのヘントを拠点に、絵画や写真、インスタレーションなど幅広い媒体を用いた表現活動を展開しています。

デ・スメットは移民、国籍、権力、伝統などをテーマとし、人々のアイデンティティを掘り下げ、その背後にある構造を炙り出しにするような作品を制作し続けています。
本展で展示される作品群は、額装の厚紙部分がルーン文字と呼ばれる古代欧州の文字の形に切り抜かれています。かつてナチスドイツは自らの歴史的正統性を主張するためにルーン文字を利用しましたが、今日の欧州の極右勢力もファシズム復活のシンボルとしてこれを使っています。しかし、この作品では、古代文字の形に切り抜かれた厚紙を通して見えるのはポルノグラフィーの写真であり、しかもそれは同性愛や肌の色の違う人同士の性行為という、極右勢力が忌み嫌うイメージです。デ・スメットはこうしたイメージの重層化の操作によって、現代社会における図像や映像の象徴の力に問いを投げかけ、私たちの歴史認識や現実把握を揺り動かします。

＊　＊　＊

本展の展示作品には、作品の性質上、性的に露骨な表現も含まれます。個人の責任と判断でご観覧ください。また18歳未満の方の観覧は原則禁止とします（保護者の同意および同伴のある場合はこれに限りません）。会場内での写真撮影も原則禁止といたします。
なお、本展のためのアーティストの来日はありません。

【展示作品】

Part 16 of Causality Unintended（意図せぬ因果関係16）
コラージュ（印刷物、厚紙）、額　27×21cm　2021 年

Part 17 of Causality Unintended（意図せぬ因果関係17）
コラージュ（印刷物、厚紙）、額　27×21cm　2021 年

Part 13 of Causality Unintended（意図せぬ因果関係13）
コラージュ（印刷物、厚紙）、額　27×21cm　2021 年

作品展示風景（参考）

【作家略歴】

ゲリー・デ・スメット
Gery De Smet

1961　アントウェルペン（ベルギー）生まれ
1984-1988　KASK（ヘント王立芸術アカデミー）
1988-1993　HISK（アントウェルペン高等美術学院）
現在、ヘント在住

主な個展

1986　「Oorlogsbodems」Le Beau Bruxel（ブリュッセル）
1987　Stedelijk Museum voor Schone Kunsten（オーステンデ）
1990　「Studie der ideologieën」Netwerk Galerij（アールスト）
1991　「Beeldengalerij」アントウェルペン高等美術学院（アントウェルペン）
1992　「Schilderijen」Dorp & Dal（ヘント）
1993　「Kultuurkamer」Galerie Hugo Minnen（アントウェルペン）
CIAP（ハッセルト）
1994　「Je suys celluy au cueur vestu de noir」Watertoren CHK（オランダ、フリッシンゲン）
1996　「AVE」Osterwalder's Art Office（ハンブルク）
「Signaturen」Sint-Lucaspassage（アントウェルペン）
1997　「Kom, volg mij」Van Laere Contemporary Art（アントウェルペン）
「My point of view」The George Rodger Gallery（イギリス、メイドストーン）
1998　「Wijzen van wonen/Ways of living」Osterwalder's Art Office（ハンブルク）
1999　「Toewijding」Campo-Santo（ヘント）
2000　「Lichtmis」Osterwalder's Art Office（ハンブルク）
「Voor uw eigen goed」RUG - Binnentuin Faculteit van Letteren en Wijsbegeerte（ヘント）
2001　「Wijzen van wonen」Galerie Mercator（アントウェルペン）
2003　「Leeuwenhart: de wil van God」MDLダインゼ・エン・デ・レイエストレーク美術館（ダインゼ）
2004　「Kleine landeigendom」Zwart Huis（クノッケ）
「Mokum en wijde omgeving」Steendrukkerij Amsterdam（アムステルダム）
2007　「Slapende cellen/Sleeping cells」Steendrukkerij Amsterdam（アムステルダム）
2009　「Today all circuits are closed」Steendrukkerij Amsterdam（アムステルダム）
2010　「See something? Say something!」アメリカン大学カッツェンアーツセンター（ワシントンDC）
2011　「See something? Say something!」現代美術館アルトエターシュ（ウラジオストク）
2013　「Paardenkracht」PAK（ヒステル）
2015　「De stand der zonnen」Villa de Olmen（ウィーゼ）

2016 「Finish a start!」The Black Wall（ブリュッセル）
「Offerfeest」Emergent（フールネ）
2017 「Avonden in Avondland」Bruthaus（ワレヘム）

主なグループ展

1997 「Reality revisited - De Herinnering als verlangen」Sala Montcada, Fundacio la Caixa（バルセロナ）
「Collection II」Osterwalders Art Office（ハンブルク）
1998 「Vlaanderen - Moskou」Cultureel Centrum Berchem（アントウェルペン）
2000 「Ieder z'n voetbal. Het voetbal in de beeldende kunst 1900-2000」Kunsthal Rotterdam（ロッテルダム）
「Devotie」W139（アムステルダム）
「Tremendum et fascinosum. Representaties van extreem-rechts (1980-2000)」Cultureel Centrum Berchem（アントウェルペン）
2001 「Het versluierd beeld」Begijnhof（ハッセルト）
「Painting - Show」M&M Gallery（ボルネム）
「Belgisch ATELIER Belge」Passage 44（ブリュッセル）
2002 「Summer in the city」Osterwalders Art Office（ハンブルク）
「De hofvijver in poëzie en beeld」Brediushuis（ハーグ）
2004 「Tong 2」Tongerloohuys（オランダ、ローゼンダール）
「Memory Sticks」Galerie Reuten（アムステルダム）
2005 「Emilie Fresco」Klooster（メヘレン）
2006 「Spotlights」Cultureel Centrum Hasselt（ハッセルト）
「In kaart gebracht」Stedelijk Museum（アールスト）
「Stadsgezichten」Erfgoedcentrum Lamot（メヘレン）
2007 「Ver van Eden/Loin de l'Eden」Hondschoote City Hall（フランス、オンショオット）/ Vinkem Church（ベオーヴォールデ）
「By the way」Tongerlohuys（ローゼンダール）
2008 「Onthaasting, About Slow Worlds and Spare Time」アメリカン大学カッツェンアーツセンター（ワシントンDC）
「Poëziezomer」（ワトー）
「Vision in Motion/Motion in Vision」Verbeke Foundation（ケムゼーケ）
「Over voetbal」Herman Teirlinckhuis（ベールステル）
2009 「Het zelfde en het Andere - Humanisme stilstaand verbeeld」Zebrastraat（ヘント）
「Als stenen spreken」Diamantmuseum（アントウェルペン）
「Fading」Museum van Elsene（ブリュッセル）
2010 「Koers」Herman Teirlinckhuis（ベールステル）
2011 「Gevaarlijk Jong」Museum Guislain（ヘント）
「Flemish Artists」Flanders House, The New York Times Building（ニューヨーク）
「Nietsvermoedend in het park」Pocketroom（アントウェルペン）
「La part des Anges」Villa de Olmen', ruimte voor actuele kunst（ウィーゼ）
2012 「Verzorgers uit!」Herman Teirlinckhuis（ベールセ）

2013　「5th Moscow Biennale of Contemporary Art Special Project」ロシア国立現代史博物館（モスクワ）
「350 jaar academie Antwerpen」MAS（アントウェルペン）
「Oorlog & trauma」Museum Guislain（ヘント）
2014　「Biënnale van Poznan」（ポーランド、ポズナン）
「Stille kracht」Warande（トゥルンハウト）
2015　「Praetoria」Praetoria」（アントウェルペン）
2016　「Buiten de context」Kasteel Cortewalle（ベフェレン）
「Land van Belofte」Praetoria（アントウェルペン）
「Biënnale van Poznan」Muzeum Narodowe w Poznaniu（ポーランド、ポズナン）
2017　「Kathmandu Triennale」（ネパール、カトマンズ）
「Camouflaged Pearls」Bruthaus（ワレヘム）
「Between earth and heaven」PAK（ブルッヘ）
2018　「Verknipt」Warp（シントニクラース）
「European Capital of Culture」Saint James Cavalier（マルタ、バレッタ）
「Manifesta」Global Garden（パレルモ）
2019　「Il potere sta nella sua vulnerabilità, Asilo」MACRO Museum（ローマ）
「Camouflaged Pearls II」Bruthaus（ワレヘム）
2020　「Salon des Editions」Museum D-Honft-D-Haenens（ドゥールレ）
「PRIVAAT - what's the meaning of private?」Bruthaus Gallery（ワレヘム）
2021　「A Butterfly's Scream」PAK（ベールネム）
「Life begins at fifty but it ends at forty」Municipal Gallery（ポーランド、ビドゴシュチ）
「Slezkin / De Smet - Life begins at fifty, although it ends at forty」Galeria Miejska bwa w Bydgoszczy（ビドゴシュチ）

主な受賞

1992　Young Belgian Painter（最高賞：Emile Langui Prize）

主な作品収蔵

NATO（ブリュッセル）
現代美術館アルトエターシュ（ロシア、ウラジオストク）
MDLダインゼ・エン・デ・レイエストレーク美術館（ダインゼ）
M HKAアントウェルペン現代美術館（アントウェルペン）
ベルギー中央銀行（ブリュッセル）
フランダース政府（ブリュッセル）
フランダース議会（ブリュッセル）
Mu.ZEE（オーステンデ）

【感染対策について】

HRD ファインアートでは、展示プログラムの再開にあたり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止対応として、以下の措置を導入・実施いたします。

① オープニングレセプションの中止

従来、展覧会初日にアーティストを囲んでオープニングレセプションを開催してきましたが、当面の間これをすべて中止します。

② 検温・不織布マスク着用・手指消毒の徹底

ご来場の方は、事前（当日）に検温をお願いいたします（会場で非接触式体温計による検温をお願いする場合もあります）。37.5°C以上の熱のある方や咳等の呼吸器症状のある方はご来場をお断りします。また、来場時は不織布マスクまたは同等以上の感染防止性能を持つマスクの着用をお願いします（ウレタンマスク、布マスク、ガーゼマスクでご来場の方には未使用の不織布マスクをお渡ししますので、そちらを着用してください）。健康上の理由等によりマスクを着用することができない場合は、事前にお申し出ください。また、ギャラリー入口に設置する手指消毒用のアルコールでの手指消毒をお願いします。.

③ 来場人数制限の実施

ギャラリー内の混雑を避けるため、来場人数の制限を設け、ギャラリーへの入場をお待ちいただく場合があります。

④ 臨時休業・完全アポイント制への移行の可能性

新型コロナウイルスの感染拡大を見極め、状況に応じてギャラリーを臨時に休業、または事前アポイントによる完全予約制とさせていただく可能性もあります。こうした場合は、ギャラリーのウェブサイト www.hrdfineart.com や SNS のチャンネルを通じて、なるべく早い段階で告知を行います。

＊＊＊

お問い合わせ：HRD FINE ART（エイチアールディー・ファインアート）

住所：〒602-0896 京都市上京区上御霊竪町494-1
電話：090-9015-6087（担当：原田）
ウェブ：http://www.hrdfineart.com
Eメール：info@hrdfineart.com